

【4】横浜市立釜利谷小学校 平成30年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○「チーム釜利谷」として全職員で子ども一人ひとりを大切に、信頼される学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の授業力を高め、分かる授業を実践し、子ども同士の学び合いを大切にしながら学力を向上させます ・互いのよさを認め合い、人とのかかわりを大切にすることのできる子を育てます。 ・健康な心身をつくるための生活習慣を形成し、進んで運動しようとする態度を育てます。 ・家庭、地域との連携を図り、豊かな体験を通して規範意識や感謝の気持ちを育てます

(2) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

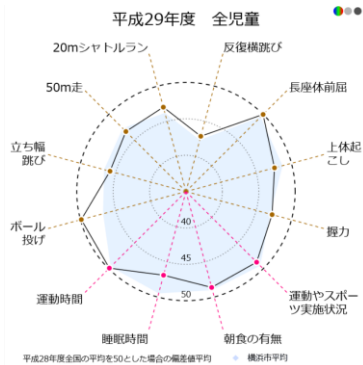
重点取組分野	取組目標	具体的取組
健やかな体	生命を尊重し互いのよさや可能性を認め合いながら、心と体の健康づくりに取り組めるようになる。	①ロング昼休みを活性化させたり休み時間を活用した体力向上の取組を工夫したりして、進んで運動する習慣を身に付けることができるようにする。 ②マラソンやおに遊びにチャレンジする機会をつくり、持久力が身に付くようにする。
担当	体育部	

2 体育健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・休み時間は、サッカーやドッジボール、鬼遊びをして外遊びに親しむ児童が多い。
- ・学区に小さな公園がたくさんあり、放課後友達と公園でよく遊んでいるが、遊びの種類は少ない。
- ・サッカー、バスケットボール、ソフトボール、スイミングなど、地域のスポーツクラブが盛んで所属している児童は多い。
- ・高学年では朝食を時々欠かしたり、まったく食べなかったりしている児童が多い傾向がある。

(2) 体力の概要と要因の分析 (小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)



- ・全体的に全国平均よりも低くなっている。横浜市平均と比べると、各学年2～3種目ほどの記録が横浜市平均よりも低い。ボール投げは、各学年とも全国平均に近い値が出ている。これについては、放課後のスポーツクラブに加入している児童が多いことも考えられる。
- ・昨年度に比べ児童の運動時間が全体的に長くなっている。ロング昼休み等の取組を続けていくことにより、改善してきたと考える。また、睡眠時間が短くなってきていることが問題といえる。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・様々な種類のボール運動を経験し、親しむことができるように、6年間のカリキュラムを設定する。また、各単元の学習計画を工夫し、学習の中で、児童の運動量を確保する。
- ・休み時間や放課後における「運動遊び」の大切さについて考え、実践できるように、保健学習を通して、望ましい生活習慣の在り方を知るとともに、体育学習を通して、運動の楽しさを味わうことができるようにする。

《他教科での取組》

- ・家庭科では食育との関連を図る。
- ・生活科・理科では生命の尊さを指導する。

道徳・特活・総合

- ・運動会では、体育科で培った資質能力を基礎とし、個人競技や団体競技、集団演技を通して運動の楽しさを味わい、自己の体力に関心をもつことができるようにする。
- ・学校保健委員会では、よりよい生活習慣が身に付くように児童が主体的に活動を進め、実践化を図る。
- ・にこにこ人権会議を中心とした取組を通して、互いのよさを認め合い、共に高め合おうとする姿勢を育てる。
- ・体育委員会による運動集会や、集会委員会によるペアや低・中・高学年集会の中での体育的集会活動では、体を動かすことの心地よさを味わったり、友達とのかかわりを楽しんだりすることができるようにする。

課外活動

- ・体育大会や区球技大会、市・区水泳大会を通して、他校の友達と共に運動したり、競い合ったりしながら、運動を通して交流することの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
- ・体育大会や球技大会に向けた朝練習指導の中で、中学生との交流を図る。

平成30年度 釜利谷小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 「マラソン週間」「逃走中週間」

《ねらい》 運動機会の確保、児童の体力向上

《内容》 体育委員会（児童）が「マラソン週間」「逃走中週間」を企画・運営し、全校児童に運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る。

●指 標： 事前の目標設定と事後の振り返り（目標を達成できたか、または目標にどれだけ近づくことができたか。）